

情報教育演習II 第8回

「CSS(3)」

今回は、前回に引き続き、Webページの表現を設定する、「CSS」について実習をします。

CSS(3)

1. [フォントスタイルの設定](#)
2. [フォントの太さの設定](#)
3. [フォントサイズの設定](#)
4. [フォントの指定](#)
5. [フォント関係をまとめた設定](#)
6. [行揃えの設定](#)

今回の課題

1. [HTMLファイルとCSSファイルを作成する](#)

フォントスタイルの設定

フォントのスタイルを設定するには、`font-style`プロパティや`text-decoration`プロパティを設定します。

```
font-style: 斜体
text-decoration: 装飾
```

`font-style`プロパティは、フォントを斜体にするかどうかを設定できます。次の値を設定できます。

- normal: 標準の文字(立体)
- italic: 斜体
- oblique: 標準の文字を斜めにしたもの

`text-decoration`プロパティは、フォントの装飾を設定できます。次の値を設定できます。半角スペースで区切って複数の値を同時に指定することもできます。

- none: 装飾なし
- underline: 下線
- overline: 上線
- line-through: 取り消し線
- blink: 点滅

```
em {
  font-style: italic;
}
strong {
  text-decoration: underline;
}
strong {
  text-decoration: underline overline;
}
```

[次へ](#)進んでください。

フォントの太さの設定

フォントの太さを設定するには、**font-weight**プロパティを設定します。

```
font-weight: 太さ
```

font-weightプロパティは、フォントを太さにを設定できます。太さには、次の値を設定できます。

- normal: 通常の太さ
- bold: 太字
- lighter: 一段細いフォント
- bolder: 一段太いフォント
- 数値:100 200 300 400 500 600 700 800 900

一般には、「lighter」や「bolder」を設定しても、指定したように表示されない場合があります。

数値の場合、通常の太さは「400」で、「bold」は「700」に相当します。しかし、それ以外の数値では、指定したように表示されない場合があります。

```
em {  
  font-weight: bold;  
}  
em {  
  font-weight: 800;  
}  
strong {  
  font-weight: 900;  
}
```

[次へ](#)進んでください。

フォントサイズの設定

フォントのサイズを設定するには、`font-size`プロパティを設定します。

```
font-size: サイズ
```

`font-size`プロパティは、フォントをサイズを設定できます。サイズには、次の値を設定できます。

- 単位つき数字: 9pt, 1.5em
- %: 指定した要素の親要素のフォントサイズに対する割合
- smaller: 親要素のフォントサイズに対して一段小さい
- larger: 親要素のフォントサイズに対して一段大きい
- 段階的な指定: xx-small x-small small medium large x-large xx-large

段階的な指定の場合、「xx-small」から「xx-large」までの7段階で指定できます。「medium」は標準のサイズです。

```
h4 {  
  font-size: xx-small;  
}  
h1 {  
  font-size: xx-large;  
}  
p {  
  font-size: 9pt;  
}  
em {  
  font-size: 80%;  
}
```

[次へ](#)進んでください。

フォントの設定

表示するフォントを指定するには、`font-family`プロパティを設定します。

```
font-family: フォント名, フォント名, フォント名, ...
```

`font-family`プロパティは、表示するフォントの種類を設定できます。フォント名には、次の値を設定できます。

- フォントファミリー名: "MS明朝" "MSゴシック" "Comic Sans MS"
- `serif`: 明朝系 (例: Times New Roman, MS P明朝)
- `sans-serif`: ゴシック系 (例: Helvetica, MS Pゴシック)
- `cursive`: 草書体系 (例: Caflish Script)
- `fantasy`: 装飾系 (例: Critter, Cottonwood)
- `monospace`: 等幅 (例: MSゴシック)

フォントファミリー名を指定するときに、空白が名前に含まれている場合は、「`"`」で囲います。

複数のフォントを「`,`」(カンマ)で区切って指定することもできます。その場合は、左から順に指定されているフォントで、表示可能なフォントが表示されます。「`serif`」「`sans-serif`」「`cursive`」「`fantasy`」「`monospace`」は、指定したフォントがない場合を考慮して、最後に指定しておくといでしょう。

```
h1 {  
  font-family: sans-serif;  
}  
h2 {  
  font-family: "MS P明朝", serif;  
}  
p {  
  font-family: "Comic Sans MS", sans-serif;  
}
```

[次へ](#)進んでください。

フォント関係をまとめた設定

フォントに関する設定をまとめてするには、`font`プロパティを設定します。

```
font: 斜体 太さ サイズ/行間 フォント名
```

`font`プロパティは、フォント関係のプロパティをまとめて設定することができます。

- [フォントスタイルの設定](#)
- [フォントの太さの設定](#)
- [フォントサイズの設定](#)
- [行間の設定](#)
- [フォントの指定](#)

サイズと行間の間は「/」で区切ります。それ以外の値の間は、半角スペースで区切ります。

また、サイズとフォント名以外は省略して、指定することができます。

```
h1 {  
  font: italic bold 9em "Times New Roman", serif;  
}  
p {  
  font: 1.5em/180% "MS P明朝", serif;  
}
```

[次へ](#) 進んでください。

行揃えの設定

行の揃え方を設定するには、**text-align**プロパティを設定します。

```
text-align: 行揃え位置
```

text-alignプロパティは、行の揃え方を設定します。揃える位置には、次の設定ができます。

- left: 左揃え
- right: 右揃え
- center: 中央揃え

```
h1 {  
  text-align: center;  
}  
h2 {  
  text-align: left;  
}
```

なお、text-alignプロパティは、指定したブロックレベル要素に対して、**その中身の揃え方**を設定します。ブロック自体を中央に揃えたい場合には、次のように左右のマージンを「auto」にします。

```
h2 {  
  margin-left: auto;  
  margin-right: auto;  
}
```

[次へ](#)進んでください。

課題: ネット上の記事へのコメントでHTMLファイルを書く

前回までと同様に、「インターネット上のあらゆる記事へのコメント」を作成します。今回も、2つのファイルを作ります。

- HTMLファイル: コメントをHTMLで書く
- CSSファイル: HTMLファイルのスタイルを書く

1. インターネット上の記事にコメントをする

(1) 情報を集める

自分が現在興味のあるテーマについて、インターネットからニュース等を探して、**自分が興味を持った記事を1つ集めなさい**。

やり方は、第3回の課題と同じです。[第3回の課題の説明](#)を見てください。

(2) 情報にコメントをつける

記事を探したら、次の順にコメントを作りなさい。なお、文字数は、「**200文字以上**」としますが、内容はささいなことでもかまいません。

やり方は、第3回の課題と同じです。[第3回の課題の説明](#)を見てください。

2. HTMLファイルの作成

第7回の課題で作成したファイルをもとに、今回の課題を作成します。

(1) ファイルの作成

第7回の課題のHTMLファイルを開いたあとに、次のようにして、名前をつけて別のファイルを作ります。

- メニューから「ファイル」 「名前をつけて保存」
- ファイルを次のようにつけて保存
 - 「0608」+「学籍番号」+「.html」(半角文字で！)
 - (学籍番号がC2092000の場合、ファイル名は「0608c2092000.html」)

(2) コメントの追加・目次の更新

次のようなレイアウトになるように、今回作ったコメントを追加して、目次の部分を更新します。第2回～第4回までの、HTMLの技術を使って、作成してください。

作成するときには、[第4回の課題での注意点](#)を参考に、今回分のコメントと目次へのリンクを作成します。

ページのレイアウトの例

ページのタイトル

目次

- [第8回のコメントへのリンク](#)
- [第6回のコメントへのリンク](#)
- ... (途中省略) ...
- [第3回のコメントへのリンク](#)
- [第2回のコメントへのリンク](#)
- プロフィール

[第8回の課題のコメント](#)

…
[トップへ戻る]
第6回の課題のコメント
…
[トップへ戻る]
… (途中省略) …
第3回の課題のコメント
…
[トップへ戻る]
第2回の課題のコメント
…
[トップへ戻る]
プロフィール
…
[トップへ戻る]
…
連絡先・著作権の情報

作成するときの注意点は、次のとおりです。

- 目次を更新する
 - 7つのコメント(第2～8回)へジャンプできるリンクをつくる
- 情報源へのURLは、その情報源にアクセスできるようにリンクにすること
- コメントを作る
 - それぞれのコメントの最後には、ページのトップ(一番上)にジャンプする「トップへ戻る」というリンクを作る
- [第3回の課題で説明した注意点](#)を守る
- ファイルの最後にある、連絡先の「更新日」の日付を更新する

```
<address>  
  作成日: 2010-04-20; 更新日: 2010-06-08<br>  
  Copyright (C) 2010 兵庫太郎, All rights reserved.<br>  
  このページに関する問合せ先:<br>  
  E-Mail. <a href="mailto:c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp">c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp</a>  
</address>
```

3. CSSファイルの作成

コメントが書かれたHTMLファイルに、スタイルを設定します。

第7回の課題で作成したファイルをもとに作成します。

第7回の課題で作成したファイルを開いたあとに、次のようにして、名前をつけて別のファイルを作ります。

- 「0607」+「学籍番号」+「.css」(半角文字で！)
(学籍番号がC2092000の場合、ファイル名は「0607c2092000.css」)

CSSを使って、HTMLファイルの各要素に次のような設定をしてください。

- [今回分]
 - フォントの設定 (すべての要素で設定)
 - スタイル、太さ、サイズなど
 - 行揃えの設定 (h1 ~ h6要素)
- [前回までの分]
 - リンク部分の色の設定 (a要素)
 - 行間の設定 (p要素)
 - マージン (margin) の設定 (h1 ~ h6、p、blockquote、address要素)
 - まわりの空間 (padding) の設定 (h1 ~ h6、p、blockquote、address要素)
 - ページ全体の文字色と背景色 (body要素)
 - 文字色と背景色 (h1 ~ h6、p、blockquote、address要素)
 - 枠線の設定 (色・太さ・種類) (h1 ~ h6、p、blockquote、address要素)

提出方法

作成したファイルを、次の場所にコピーして提出してください。

- 「マイコンピュータ」 「Fsの資料・課題」 「kawano」 「提出」

提出期限

- 原則として、**平成22年6月15日9時**までとします。
- 期限以後は、特別な理由がない限り、提出を受け付けません。
- 課題のやりなおしは、提出期限まで受け付けます。